

論文審査の結果の要旨

2020年4月10日午後5時55分から7時10分まで、本部棟第3講堂にて審査員全員の出席で開催された。

まず、申請者の資格について審査を行い、問題の無いことが確認された。

申請論文は、埼玉医科大学雑誌に掲載予定で、成人ネフローゼ症候群のうち、ステロイド依存型および頻回再発型の患者に対してB細胞除去薬であるリツキシマブを投与し、後方視的にその有効性および安全性を解析した論文である。リツキシマブを投与されたのは17例で、それらの症例は複数回投与によって再燃の頻度は有意に低下し、副腎皮質ステロイドや免疫抑制薬の投与量も有意に減少したことが示された。安全性に特段の問題はなかった。

申請者による学位申請論文に関するプレゼンテーションが行われ、続いて審査委員による質問およびコメントとそれに対する申請者の応答が成された。

主な質問やコメントは以下の通り。

- ・ 研究のデザインが後方視的でランダム化比較試験でもないので、有効性に関する結論には限界がある。
- ・ 論文の目的とその結論が十分に合致しているとは言えない。
- ・ ステロイド依存型および頻回再発型病型の2つの異なる病型の合計なので、結果がきれいに揃わなかった可能性がある。
- ・ 統計処理において、何故多重比較検定にSteel法を用いたのか。
- ・ 副腎皮質ステロイドの投与量が1年目に増えているのは何故か。
- ・ CD19とCD20をそれぞれ測定している意義は何か。
- ・ CD19陽性B細胞とCD20陽性B細胞の機能および相違は何か。
- ・ ネフローゼ症候群の病態においてSwitched memory B細胞が重要と考えられるのは何故か。
- ・ リツキシマブ投与によって血清IgGは減少するのか。
- ・ 論文においてミスタイプや表記ミスがあった。

これらに対して申請者は、一部不完全なものもあったが可能な限り誠実に回答を行い、当該領域の知識を有し、研究の完遂に自ら努力したことは明らかであった。また、科学に対して真摯に向き合っている姿勢が確認出来た。

以上のことから、申請者の論文は学位論文として相応しく、申請者は学位審査において適格であると審査員一同が判断した。